

インド・アンドラプラデシュ州の共同森林管理計画下における 少数民族による非木材林産物利用の実態分析

西田 光貴

キーワード：共同森林管理計画、少数民族、非木材林産物 (NTFP)、共有資源

1. 本論文の背景と課題

インド各地には多数の少数民族が生活し、彼らの多くは直接あるいは間接的に生活を森林に依存している。なかでも彼らは、非木材林産物 (Non-Timber Forest Product: NTFP) と呼ばれる木材以外の森林資源の収集を行い、生活を営んできた。しかし、森林資源の商業利用を推奨した過去の森林政策などにより森林破壊が進み、収穫できる NTFP 量が減少したことで、少数民族の生活は多大な影響を被った。そこで、アンドラプラデシュ州では、このような状況を改善し、森林管理を通して貧困削減を目指した共同森林管理計画が導入された。

このような背景のもと、本論文は、少数民族の視点から共同森林管理計画を検討し、現地調査により少数民族による NTFP 利用の実態を明らかにするとともに、NTFP を独占的に取扱う Girijan Cooperative Cooperation (GCC) の役割を考察することを通して、共有資源である NTFP の効果的な利用方法について検討することを目的とした。

2. 共同森林管理計画

共同森林管理計画は、地域コミュニティの森林管理への参加を促進し、農山村地域の貧困を減少させることを目的として、2002 年から 2007 年にかけて、指定少数民族が居住する、州内 5,000 の村において実行された。しかし、村が自主的に森林を管理するためのマイクロプランが森林局によって作成されるなど、地域住民への権限委譲は十分に行われていなかった。

3. アンドラプラデシュ州・スリカクラム県の少数民族による非木材林産物利用の実態

スリカクラム県内の Podagavalli 村、Gottupalli 村、Mamidi jola 村において、NTFP の実態調査を行った。その結果、各村において、NTFP の種類により利用方法が異なることがわかった。例えば、近隣の村からの需要が多いが収穫量が少ない Amla の場合、村人は注文を受けた後に収穫を行い、販売を行っていた。また、どの村においても、収集した NTFP を、GCC ではなく、仲買人に主に販売していることが明らかとなった。

4. 非木材林産物のマーケティングにおける Girijan Cooperative Corporation の役割

GCC は、不適切な価格で NTFP の取引を行う仲買人を排除することにより、NTFP の収集を行う少数民族へ安定的な収入を確保することを目的に、1956 年に設立された。GCC は NTFP の買い取り・移動・加工に関する権利を独占している。

GCC への調査と村での調査の結果、少数民族から NTFP を買い取る体制が不十分であることや、市場での需要が少ない NTFP の買い取りは積極的に行っておらず、GCC の活動目的が十分に達成されていないことがわかった。

5. 少数民族による非木材林産物利用の促進に向けた今後の課題

少数民族が収集を行っている NTFP は、少数民族にとっての共有資源であるだけでなく、州政府にとっての共有資源でもある。少数民族がそのような NTFP を十分に利用するためには、彼らの立場に立った森林計画作りと、収集した NTFP を買い上げる GCC の体制の強化が必要である。そして、共有資源である NTFP を増やすためには、少数民族と森林局、GCC の間に、相互のコミュニケーションを持つ場を、今まで以上に設ける必要がある。